

SDGs（持続可能な開発目標）を知っていますか？

「市報しものせき」～特集 プラスチックごみ 私たちにできること～を読んで物足りなさを感じました。

地球規模で問題になっている、それは具体的に何が問題なのか？ 世界全体で取り組む必要がある、それは具体的に何をすることなのか？

「このままでは地球があぶない！」ということだと思います。そのために国連が決めた2030年までに世界の人々が達成しなければならない17の目標、それがSDGs（持続可能な開発目標）なのです。日本はとても遅れています。

朝日新聞 2021/2/1 の社説にこうありました。

■「脱炭素元年」の世界～危機克服へ変革を急がねば～

「気候危機への対応はもう待てない。今行動のときだ」

バイデン大統領は先週、地球温暖化対策の大統領令に署名した。「気候変動は地球存亡の脅威だ」として、対策の国際ルール・パリ協定に復帰し、4月に気候サミットを開いて世界をリードしていくという。・・・

菅政権は昨年末、「50年に実質ゼロ」のためのグリーン成長戦略をまとめた。新たな技術開発などで脱炭素と成長の両立をめざすという。・・・

今後10年足らずで大幅削減するには、新たな技術開発を待つてはいられない。石炭火力発電からの撤退、CO₂排出に課金するカーボンプライシング（炭素税や排出量取引）の導入、再生可能エネルギーの大幅な拡大などに、すぐ着手すべきだ。

■グリーンな社会こそ

すでにビジネスでは、脱炭素の競争が始まっている。・・・

事業規模にかかわらず、脱炭素の対応が遅ければ新時代のビジネスで生き残れない。日本の企業もそう認識し、事業の変革を加速させてほしい。

消費者の姿勢もまた問われている。世界の排出量の3分の2は家庭生活と関わっており、一人ひとりが暮らしをグリーン化する意義は大きい。

再エネや電気自動車の利用のほかにも出来ることは多い。肉食に偏りがちな食生活の見直しや脱プラスチックは温暖化対策と無関係に見えて、実は、食肉の生産・加工・運搬にともなう排出やごみ焼却の際の排出を減らすことにつながる。

UNEP（国連環境計画）によると、所得の上位10%の人々だけで世界の排出量のほぼ半分を占めるといふ。先進国で暮らす私たちは責任の大きさを自覚し、日常生活の見直しに努めなければならない。

（一部抜粋）

私たちの会では、SDG s（持続可能な開発目標）の学習をしながら、子ども食堂で、少しでも実践をと思い、エコバンブーの弁当容器やエコ袋を利用しています。またSDG sの説明書をお弁当の袋に入れて、見てもらいたいと思い実践しています。

でも、メンバーの中にも面倒くさい思いの人もいます。一人ひとりが暮らしをグリーン化することを当たり前だともう習慣を身につけるしかないと思います。市報に分かり易い実践できる方法を掲載してほしいです。SDG s（持続可能な開発目標）の担当は総合政策と聞きます。重要な政策だと思いますので、早急に進めて下さい。

SDG sを市長がどのような考えをしているのかを知りたくて、市長の公約を読みました。

～市民が安心・安全はもとより、より豊かでより幸せな生活を送ることのできる未来社会「希望の街」の実現を目指す～とあります。SDG s未来都市の推進と5番目に小さく書いてありますが意味が分かりません。

希望が湧いてきません。市民の命と暮らしを守り抜くとありますが市民の命を守っていないように思います。

コロナ禍自立支援がなされていますか？

貧困問題はなにもなされていません。

子ども食堂の集まりで、子ども政策の課長補佐が「市にはお金がありません、補助金も出せません、自分たちの想いでやってください。」上から目線の発言でした。市民の公僕が仕事であることを忘れてこのようなことを発言しました。市の職員の半分近くはこの様な対応だそうです。

「お金をください」と私たちは言っていない。やる気をなくします。

夜にはホームレスが増えたと聞きます。市民の命を守ってください。